



県・保健所任せでは 市民の命は守れない

星野 久美子 議員《日本共産党》

新型コロナウイルス感染症について、現在は第5波と言われているが、本市においても陽性者数が日々増えるとともに、重症者数が非常に増えています。感染爆発が起きて、医療現場が逼迫している中、自宅療養を余儀なくされている方々の不安は非常に大きくなっています。海老名市や鎌倉市などの自治体では、自宅療養者へのサポートを市独自で行っていますが、本市のサポート体制について伺います。

PCR検査等について、現状は、濃厚接触者でも無症状の場合は行政検査を受けることができませんが、検査の拡大に対する見解を伺います。

健康部長 現在、市独自の自宅療養者への支援は実施していません。本市における検査数と陽性率及び入院者数、宿泊療養施設への入所者数、自宅療養者数については、県からの公表がないので、把握していません。濃厚接触者へのPCR検査等の拡大については、現在、県内の陽性者数の激増に伴い、保健福祉事務所の業務は逼迫している状況にあり、拡大を県に求めることは困難であると考えます。



庁内連携でさらなる 生活環境の向上を

荻原 健司 議員《自民党・いさま》

小田急相模原駅周辺地区の都市再生整備計画では、完了した市道相模が丘136号線の美装化に加えて、地区内にある各市道の拡幅やさらなる美装化などを行うことで、地域拠点にふさわしい駅前空間の形成を行うことを目的としています。これを踏まえ、同地区における放置自転車対策の見直しや環境美化条例による路上喫煙禁止区域の指定に

向けた検討も喫緊の課題と考えます。同地区の自転車放置禁止区域の拡大や路上喫煙禁止区域に指定することにより、さらなる生活環境の向上につながると考えており、都市計画課、市民協働課、環境政策

課が連携し、政策を総動員して課題解決すべきと考えますが、見解を伺います。

市長 課題に対する姿勢として、関係部署が連携を図り、取り組んでいく考えです。また、路上喫煙禁止区域の指定について、路上喫煙やポイ捨ての状況に係る調査をしており、調査結果や市民からの要望を踏まえて、区域の指定について検討を進める考えです。

市民部長 道路拡幅により放置自転車が増加する可能性も考えられるので、当該地区の自転車放置禁止区域の見直しについては、関係機関や関係団体の意見を聞きながら検討したいと考えます。



相模原二ツ塚線の自転車道 未整備区間は協議を進める

竹田 陽介 議員《自民党・いさま》

自転車利用環境の整備について、総合都市交通計画では自転車走行空間の整備推進を施策事業としており、整備延長14・14キロメートルを目標としています。自転車ネットワーク基本計画では、優先整備予定路線（区間）と整備形態が定められていますが、優先整備予定路線（区間）14・45キロメートルの進捗状況と今後のスケジュールについてお示しください。

都市部長 自転車施策の優先整備予定路線（区間）について、座間南林間線は、大和市との市境付近が一部整備済みです。相模原二ツ塚線の自転車道については、小田急小

田原線の小田急相模原1号踏切から市道相模が丘149号線までの約650メートルの区間を車道混在の形態として、矢印やピクトグラムを設置し、県による整備が進んでいます。が、以南の県道50号座間大和までの区間は未整備箇所があり、自転車道の連続性が保てないため、協議が調わずに未整備となっています。今後、整備に伴う協議を進めていきます。座間南林間線は、今後予定している道路改良工事に合わせて自転車道の整備を行う予定です。また、その他の優先整備路線についても、費用対効果等を考慮した上で整備を進めていきます。



市長への提案制度にLINEを 活用することへの所見を問う

加藤 学 議員《座間市公明党》

市では、市民からの意見や要望を市の施策に反映させるため、手紙、電子申請、電子メールによる市長への提案制度を設けています。市民からの意見を広く聞くという意味でよいことだと思いますが、会話の中では様々な考えを述べられても、市役所に電話を掛けることや文書で意見を提出することが苦手な方もいます。現行の提案方法に加えて、

社会に広く普及しているLINEを活用して、市への意見や要望を伝えることが可能となれば、よりよいと考えます。市長への提案制度にLINEを導入することについて所見を伺います。また、導入の時

期について、目安があればお示しください。

市民部長 市長への提案制度について、市民が気軽に市へ意見や要望を伝えることができる仕組みづくりは必要であると考えます。困ったことを声にすることや思ったことを伝えるだけでも気持ちの整理がつくことがあると思うので、現行の手続にとらわれないこと、LINEなどを活用した新たな意見聴取の手段等について検討していきます。

導入の時期については、今年度、具体的にLINEの活用や意見聴取の仕組みを検討して、来年度に向けて準備を進めていきたいと思っています。



小・中学校の熱中症対策と修学旅行 キャンセル料の負担軽減について

川崎 高一 議員《さま大志会》

小・中学校における熱中症対策について、本市の学校管理下における熱中症の件数と、本市では熱中症対策ガイドラインを作成しているのか伺います。また、熱中症に係る教職員への研修はどのように行っているのか伺います。次に、小・中学校の修学旅行について、新型コロナウイルス感染症の影響で実施計画をどのように変更したのか伺います。また、小学校の修学旅行の中止によるキャンセル料が発生していますが、補正予算で、小学校修学旅行保護者負担軽減事業費を計上しています。中学校も同様の対応をするのか見解を伺います。

教育長 令和3年4月から8月までの学校管理下における熱中症の件数は、中学校で1件です。現在、本市独自の熱中症対策ガイドラインは作成していません。県のガイドラインに沿い、適切な対応をしています。各学校では、校内研修等で熱中症に関する情報を共有し、周知、徹底を図っています。修学旅行については、中学校が6月実施の予定を9月から12月の期間に延期しました。小学校は中止し、日帰りの遠足を予定しています。キャンセル料が発生した場合、保護者負担を軽減するため、補正予算の計上を調整したいと考えます。



次期総合計画の策定計画見直しについて市長の見解を問う

沖本 浩一 議員《さま大志会》

（仮称）第五次座間市総合計画の策定計画は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、無理が無理を生じています。なぜもと早く知恵を出し合ってアクションを起こさなかったのか悔やまれるばかりです。座間市未来デザイン会議は、地区別懇談会の代わりとして認識されないとはいえ、会議で得られた意見を総合計画に反映するという役割を果たすこともなく、市民から問題を突きつけられる結果になりました。およそ1カ月後に基本構想骨子案が示されるスケジュールにおいて、地区別懇談会の開催などは、今後検討すると答弁されています。

ですが、基本構想骨子案の作成前に市民の意見を聞くのであれば、現段階で開催について広報されていないことから、意見の反映は間に合いません。また、基本構想骨子案の策定作業の進捗状況について、庁内の検討体制が整っているものの作業が進んでいません。第四次座間市総合計画の総括も現在、取りまとめている段階です。このままでは、総合計画自体が中途半端になってしまうと考えますが、市長の見解を求めます。

市長 策定計画の見直しについて、現時点では考えていません。

市民教育常任委員会が審査が行われましたが、閉会中の継続審査に決まりました。

次の陳情は、9月定例会の民生教育常任委員会が審査が行われましたが、閉会中の継続審査に決まりました。

陳情第18号 加齢性難聴者の補聴器購入に市独自の公的助成制度の実施を求める陳情

請願・陳情の 提出について

請願・陳情はいつでも受け付けています。提出された請願・陳情は3月、6月、9月、12月の年4回開催される定例会において審査されます。第4回（12月）定例会で審査をする請願・陳情は、令和3年11月17日（水）までに議会事務局へご提出ください。

なお、定例会ごとの締切日は、議会事務局にお問い合わせください。
☎046(252)8872

会議録をご覧ください

座間市議会だよりでは、各議員の文責により質疑・質問・答弁・討論の発言の一部を抜粋して掲載しています。詳細は会議録をご覧ください。

パソコンやスマートフォンから市議会のホームページでご覧ください。また、市役所1階の市民情報コーナー、図書館でもご覧いただけます。

なお、9月定例会の会議録は11月下旬ごろから閲覧できます。